

平成25年度第2回近畿中国森林管理局国有林材供給調整検討委員会の開催結果について（概要）

第2回近畿中国森林管理局国有林材供給調整検討委員会を開催し、供給調整の必要性等についてのご意見をいただきました。

1 日時及び場所

平成26年1月30日（木）
近畿中国森林管理局4階第3会議室

2 議題

- (1) 近畿中国森林管理局管内の供給調整について
- (2) その他

3 議事概要

《検討結果》

年末までの材価の高騰から、「国有林材の供給に関する緊急対策」として、素材生産の前倒し、立木販売の再公告等の対策を行っているところである。また、年明け以降は木材価格の上昇も落ち着きつつあり、国有林材の供給調整の必要性は認められないが、引き続き市場動向に注視していく必要がある。

〈主な情報、意見について〉

○国産材の供給及び価格の動向について

- ・全般的には、今年になってスギ・ヒノキとも価格が一段落した。
- ・国産材需要の増加に供給が追いつかず、輸入材への回帰が一部見られる。
- ・昨年木材需要は異常な状態であったが、今年は、その裏返しが心配される。
- ・合板用材の調達が厳しく、価格を上げて材が思うように集まらない。
- ・素材生産業者と製材・合板工場等が連携し、双方のメリットになるような長期安定的な供給の仕組みを作っていく必要がある。

○素材生産の動向及び今後の方向について

- ・素材生産量は増加しており、雪等の影響がなければ引き続き順調な出材が見込まれる。
- ・労働力の確保では、公共事業が優先され、林業の担い手が不足している状況が見られる。
- ・バイオマス発電用材の供給が本格化すると、素材生産事業者の数が大幅に不足する可能性が高い。
- ・素材生産を行う事業者の新規参入や育成のためには、民国連携の下での安定的な事業量の確保と情報の発信が重要である。
- ・国産材の供給拡大に向けて、皆伐による循環型の林業へ持っていくためには、低コスト施業の普及と育林費の助成措置が不可欠である。

○その他

- ・バイオマス発電の本格化に向けて、製材用、合板用、チップ用、バイオマス発電用といった材の棲み分けをしないと、出材量の少ない地域では混乱が生じる。
- ・木材供給に係る近中局の国有林材のシェアは限られているが、近中局は木材供給等について引き続きしっかりとしたメッセージを出して行く必要がある。